

日下実甫の東行を送る叙

(戊午幽室文稿) 安政五年二月上旬(一八五八)二十九歳

吾が妹婿日下実甫は年未だ弱冠ならざるも、志壯気鋭、之れを運らすに才を以てす。吾れ嘗て推すに吾が藩の少年第一流を以てせり。ことし二月、将に山陽より東上し皇京に過り、更に東のかた江戸を見んとし、贈言を余に請ふ。余謂へらく、今や天下大変革の兆あり、而して実甫は吾が社の領袖なり、吾れの之れに語る寧んぞ尋常の言を以てせんやと。吾れ幼より喜んで震旦史を読む。而して其の宋亡びて胡元となり、明亡びて満清となりしこと、独り自ら感あり。彼の震旦なるもの、三代漢唐は儼然として中夏を以て自ら居り、間ま兪狄、匈奴の如き者ありと雖も、以って勝ちて之を過ぎたるは拓跋契丹を然りと為す。然れども未だ曾て区夏を包挙せざるなり。唯だ胡元、満清則ち能く之れを包挙す。是れ固より震旦の大変革なり。而して其の時に及んでは、家鉉翁、胡身之、徐昭法、魏叔子諸人の如きあり。許衡、陸隴其諸人の如きあり。その他因循依違すると、狼狽願望する者との流は勝げて計ふべからず、而して許陸の倫は世或いは仰ぎて正学純儒と為すも家胡徐魏の諸人に至りては、亡国の一清節士と為すに過ぎず。然らば則ち世俗の論、何ぞ与に軽重を為すに足らんや。抑々震旦の国たるや、廢興相仍り、固より道ふに足るものなし。而して明季の事、独り頗る観るべし。蓋し燕土に死する者あり、金陵に死する者あり、台湾に死する者あり。呉三桂、史可法、耿尚忠の如き者に至りては満清稱して三叛と為すこと。猶

ほ殷の頑民の如し。嗚呼、此の四者は固より家・胡・徐と其の志を同じうして、決して許・陸の比に非ざるなり。今、吾が神州宴安無事なること二百余年。一旦墨夷一价を馳せ、征夷府に入るや、征夷府將に国を挙げて聽かんとす。天下の事、ここに於いて知るべきなり。而して吾人此の間に処する、宜しく何れの所へか適従すべき。家・胡・徐・魏は蓋し志ありしならん、而れども成す所なくして死す。許と陸とは正学純儒と称せらるると雖も、吾れは万従ふ能はざるなり。燕土金陵台湾と所謂三叛なる者とは、其れ必ず一に宜しき所あるなり。若し乃ち劉文叔の漢室を再造し、朱元璋の胡塵を掃蕩するは、彼に在りては方に憾みなきものと謂ふべし。実甫往け。士此の間に生まれて、適く所を択ぶを知らざれば、士氣と才氣と、將た何の用ふる所ぞ。生の死に如かざるや之れ久し。実甫の行、皇京に過り、江戸を觀れば、其れ必ず徧く天下の英雄豪傑倜儻の士を見ん。往きて与に此の義を討論し、以つてこれを至当に帰し、返りて一国の公是を定むるは、誠に願う所なり。若し然る能はざれば、吾れの推すに少年第一流を以つてせしは、一家の私言となりて、天下の士に愧ずべきや大なり。実甫往け。是を贈言となす。

解説

久坂玄瑞は前年十二月に松陰の妹文(美和)と結婚している。本文は学業稽古のため三年間の江戸留学の途につく妹婿玄瑞に贈った送叙である。「狂夫の言」に言う「大患」の最中の東上である(二月二十六日出立)。松陰にとっては義弟であり、長州藩の少年第一流の人物と見込んできた玄瑞である。ここにおいて、天下の英雄豪傑個儻の士との討論を通じて、日本の進むべき方向を模索してくるよう激励している。玄随も正月十三日には国老益田弾正に書をおくり、時局打開のために家老に期待するところを述べている。「國相益田弾正君に上る書(久坂然瑞全集)。松陰はまた江戸にある桂小五郎及び長原武に宛てて玄瑞のことを頼んでいる。(桂小五郎宛)二月十九日、「長原武宛」二月二十八日)。

用語解説

日下実甫くさかじつぽ 〓 久坂玄瑞くさかげんずい、(一八四〇〜六四) 実甫は字。松下門下の逸材。松陰の妹文の婿となり村塾では、富永有隣とみながゆつりんや久保清太郎らと共に助狂教的存在であった。安政五年二月に江戸遊学のため萩を出発した。

送る叙じよ 〓 人が旅立つ時、その人への期待や旅の意義、安全等を述べてはなむけとする文章。送叙そうじよ、贈叙ぞうじよに同じ。

弱冠じやくかん 〓 数え年二十歳。

志壮気鋭しそうきえい Ⅱ 志が盛んで意気込みが鋭いこと。

之れを運らすに才を以てす Ⅱ その志と才知によって運用する。

吾れ嘗て推すに Ⅱ 私はこれまでに推薦したことがあった。

皇京こうけいに過り Ⅱ 御所のある京都に立ち寄り。 贈言こうげんⅡ ここでは贈叙。送る叙に同じ。

我社わがの領袖りょうしゅう Ⅱ 松下村塾の中心人物。

寧んぞ尋常の言を以てせんやと Ⅱ どうしてありきたりの贈言でよかるうか。

震旦史しんたんし Ⅱ 中国史。昔インドで中国を震旦しんたんと呼んだ。

胡元こげん Ⅱ 中国の元朝(一二七〇～一三六八)賤称せんしょう。

満清 Ⅱ 中国の清朝(一六一六～一九一三)のこと。中国東北部の満州地方にいた満州族が漢民族の明を滅ぼして建国した。

三代 Ⅱ 古代、中国の夏、殷、周の三王朝。

儼然として中夏を以て自ら居り Ⅱ 犯し難いほどの威厳を持って、世界の中心に位置する文明国として誇った。

間ま Ⅱ 時として。

獫狁けんいん、匈奴きょうと Ⅱ 前四世紀末頃から蒙古地方を根拠地にして中国を脅かした遊牧騎馬民族の一つ。中国の周代「には獫狁と呼び、漢代以降は匈奴といった。

拓跋たくばつ Ⅱ 中国の北方にあった一族。四世紀後半に華北に侵入し北魏(三八六～五三四)を建国した。

契丹きつたん Ⅱ 中国の東北部にあった一族。一〇世紀初めに万里の長城地帯に侵入し、中国東北部、モンゴル、華北にまたがる国家を建設し後に遼(九三七～一二五)と称した。

区夏くかを包挙ほうきょせざるなり Ⅱ 中国本全域を征服していない。

家鉉翁かけんおん Ⅱ 中国、宋末、元初の人。眉山の人で字は則堂。南宋滅亡後、元の招きを退けて仕えず、清節を守った。

胡身之^{こしんし} 〓 一二三〇〓一三〇二 中国、宋末、元初の歴史学者。浙江省^{せつこうしょう}のひとつで字は身

之。南宋滅亡後、元に仕えず抵抗の意を秘めながら、ひたすら『史治通鑑』（中国の史書、宋の司馬光の著）の注釈に専心した。

徐昭法 〓 中国明末、清初のひと。字は昭法。明に仕えたが、滅亡後は清節を守り、身を終えた。著書に『居易堂集』がある。〔『野山獄文稿』中の「居易堂集を読む」

魏叔子 〓 一六二四〓八〇 中国、清初の代表的文章家。字は冰叔。明の滅亡後も清に抵抗し、野にあつて学を講じた。（『丁巳幽室文稿』中の「魏叔子文鈔を読む」

許衡 〓 一二〇九〓八一 中国、元の学者。字は仲平。朱子学者として名高く、元に仕え朝廷の漢化に尽力した。著書「許文正公遺集」一二巻。

陸隴其 〓 一六三〇〓九二 中国、清初の学者。字は稼書。朱子学者として清に仕えた。因循依違 〓 どっちつかずで、態度がはっきりしない。

狼狽願望 〓 うろたえながら、周囲を見回して様子を窺う態度。勝つて計ふべからず 〓 多くていちいち数え切れない。

正学純儒 〓 孔子の教えを純粹に継承した儒学者。一清節士 〓 清廉潔白で節操の固い人物。

廢興相仍り：足るものなし 〓 中国では、王朝の興亡が繰り返されており、これは皇統連綿たる我が国（日本）に比べると誠に言うにたらない。

明季の事 〓 中国明朝末期の状況。

燕土 〓 現在の中国の首都である北京のこと。明朝の永楽帝以降、首都となった。

金陵 〓 中国南京の古名。明朝の最初の首都がここにおかれた。

台湾に死する者あり 〓 明の遺臣鄭成功等は清に追い詰められて台湾に渡り、明の再興を図ろうとして戦ったが、敗死した。

呉三桂、史可法、耿尚忠 〓 耿精忠が正しい。呉三桂（一六二二〓七八）、耿精忠（？ 〓 一六八二）は何れも明より帰順して清の中国平定に功を立てたが、ごに明の再興を図って背き（三藩の乱）殺された。史可法（一六〇二〓一六四五）は明滅亡の時に福王を擁して拳兵したが、揚州で捕えられ殺された。

三叛 〓 三藩の乱 一六七三〓八一 をいう。

殷の頑民 〓 殷が滅び周の時代になったにもかかわらず、殷の旧王室を敬つて周に従おうとしない頑迷な人民。

神州 〓 神国日本

宴安無事 〓 安らかで平穏なさま。

墨夷一价を馳せ 〓 アメリカ合衆国が使者を出向させるの意。領事ハリスを派遣したこと。征夷府将に国を挙げて聴かんとす 〓 幕府が、アメリカ合衆国ブキャナン大統領の親書、

及びハリスの口上書を諸侯に示し意見を求めたこと

とをさす。

吾人 〓 私。

適従 〓 身を寄せること。

万従う能はざるなり 〓 決して従うことは出来ない。

劉文叔 〓 前六く後五七 中国後漢の創健者。光武帝。名は秀、字は文叔。王莽の新を破り漢王朝を再興した。

朱元璋 〓 一三二八く九八 中国、明の創建者。洪武帝。モンゴル人の元（胡塵）を滅ぼして漢民族国家を再興した。

掃蕩 〓 はらい除く。平定する。

士此の間に生まれて…何の用ふる所ぞ 〓 武士たる者、こうした時勢の仲に生まれていながら、自分の行くべき道を選択出来ないならば、志気も才能も何の役に立つと云うのか。

生の死に如かざるや之れ久し 〓 生は永遠に死に及ばない。

個儻の士 〓 才気が衆人に比べ、かけ離れて優れていること。

往きて与に此の義を討論し…誠に願ふところなり 〓 京都や江戸の豪傑達と世の大変革

について大いに論じ、何をなすべき

か、最も適当な方向を見定め、帰藩

して長州藩の方針を決めることは

私（松陰）の最も願う所である。

若し然る能はざれば…愧ずべきや天なり 〓 もし、それが出来ないならば私（松陰）がおま

え（玄瑞）を第一流の人物と推奨してきた言

葉が、単なる私一個人のものに終り、天下の

士に対し大いに恥じなければならぬ。

[吉田松陰の名文・手紙を読む【目次】](#) [ページへ戻る](#)

[吉田松陰.com](#) [トップページへ](#)